

平成二十三年一月二十七日提出
質問第一八号

クマの大量出没に関する質問主意書

提出者
馳
浩

クマの大量出没に関する質問主意書

昨年はクマの大量出没が全国的にも大きな問題となった。

私の地元の石川県でも、例年以上のクマによる人的被害、目撃情報が寄せられ平成十八年以來のクマ出没「警戒情報」を発令した。住宅街までクマが出没したケースが多かったのが今回の特徴である。

昨夏の猛暑の影響で、クマがエサとしている、どんぐり類が不作だったことが大量出没の主な要因だとされている。それに加えて、農村過疎化や生活形態の変化、戦後の国土政策等、様々な社会構造の変化も複合的に影響していることが専門家から指摘されている。

子どもやお年寄りの安全を確保し、安心して生活できる環境づくりのためにも、人間とクマ、そして自然と共生した社会を築くことが求められる。自然への配慮やクマの生態系を正しく理解した対策を行い、人間と野生動物との共存共栄のあり方を考える必要性が問われている。

従って、次の事項について質問する。

一 昨年の全国のクマによる人的被害状況、農林業への被害状況、目撃数、捕獲数、殺処分数について、把握する数字を示されたい。

二 政府は、昨年のクマの大量出没の原因についてどのように考えているか、見解を問う。

関連して、その対策として現在、実効性が高いと考えられているものについて示されたい。

三 クマの捕獲、殺処分が行われている一方で、クマの絶滅が危惧されている。ツキノワグマは九州では絶滅し、四国でも絶滅寸前と言われ、深刻な状況である。クマは森の生態系が健全かどうかの目安であり、植物の種をフンとして出すことで森林更新の役割も果たしていると言われている。生物多様性や自然の生態系を守るためにも、クマとの共存は大きな課題である。そのような状況で、クマの正確な生息数を把握することは必要不可欠である。クマの出没が多いからといって、クマの総数が増えている訳ではなく、減少傾向だと聞くと、現在のクマの生息数について政府の把握する数字を示されたい。

四 三に関連して、捕獲したクマを山に帰そうとしても、様々な事情でそれが容易でない例が多く報告されている。経費の問題や山の所有者に許可が取れない、再び人里に戻ってくることなどが原因である。また動物園や牧場も野生のクマの受け入れは難しいと言われている。

絶滅が危惧されているクマの保護に関して政府の見解を示されたい。

五 クマを捕獲する狩猟者の減少と高齢化が問題視されている。狩猟者の減少により、クマが人里に下りて

くることを怖がらなくなったことも大量出沒の原因として考えられているが、政府の見解は如何。

六 森林政策について、戦後進めてきた広葉樹を伐採し、材木になるスギ・ヒノキ等の針葉樹を大量に植林する政策によって、クマを始めとする野生動物がエサとすみかを失ったことが、人里にそれを求めて出沒する理由の一つとして考えられている。さらに林業の衰退により森が荒廢し、さらなるクマのエサ不足に拍車がかかったと言われている。

また、スギの人工林が放置されることで、木々が密集し、光が当たらないことで、地面に草が生えず、森の土がむき出しになり、山崩れや土砂災害を引き起こすなど水源地の保水力の低下が懸念される。これは都市住民の生命や財産にも直結してくる問題である。

戦後の拡大造林政策を、政府はどう評価し、また今後どのような対策を講じていくのか示されたい。

七 農村の過疎化によって、以前は人の手によって管理されてきた里山が放置されたことで、クマが茂みに身を隠してエサが豊富な人里へと移動をしやすくなったことが指摘されている。

クマの行動範囲が拡大したことで、人間との不幸な出会いを引き起こす原因となっていると考えられているが、過疎化とクマの生息範囲の拡大との関連性について政府の見解は如何。

右質問する。